

天文学とプラネタリウム

第 98 回



今月のお題

校庭に星空



グラウンドを広く使える機会があったので、子どもと一緒に星図を作って遊びました。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

夜の校庭を蠢く無数の怪しい人影。“アルビレオはここじゃない!” “いるかはこんな形?” と子どもの声飛び交います。ふだんとは異なる様子に、通りがかった近所の人は、訝しげに中を覗いていきます。

三鷹市立第四小学校で毎月1回行っている天文部活動「アストロクラブ」の活動も、今年では7年目。1年生から6年生まで、約50名弱の児童が参加して活動を行っています。最初の頃は1年生だった子も、今や中学生。クラブサポーターとして下級生の面倒を見てくれます。光陰矢のごとし、子どもの成長に時間の流れを感じます。自分たちも、もう保護者の年齢か……。

このアストロクラブですが、7年目にして初めての取り組みを行いました。学校での泊まりキャンプです。NPO 自然体験活動支援センター (WEASC) さんの協力で、学校の校庭にテントを張って、宿泊体験をするプログラム。もう、子どもは超興奮。日中からかけずり回っていました。キャンプの魔力、おそろべし。

キャンプは全て WEASC さんにお任せで、私た

ちはな一んにもしなかったのですが、なにかプログラムをひとつぐらい……ということで、学校の校庭を使って巨大星図を作ってみることにしました。それが冒頭の怪しい活動です。パキッと折って使う光る腕輪を星に見立てて、夏の星座たちを校庭に再現してみました。

やることは単純。まず私たちスタッフがグラウンドに星座の境界線だけを白線で描きます。あとは、部員たちに星図と星を渡すだけ。ふだんから星図を見慣れている部員たちは、あっさりそれで理解して、星を持って各星座領域に散らばっていききました。素晴らしい。

目立つ星の少ないこぎつね座には多少苦労しましたが、1年生から6年生までが協力して、こと座、はくちょう座、わし座、や座、いるか座を作り、無事に星図が完成しました。完成した星図は、校舎の屋上から眺めてみるとたいへん綺麗でした。本当は、晴れていれば同じ光景が頭上にも見えたはずだったんですけど、それは残念ながらお預け。また別の季節の星図にもチャレンジしてみたいものです。皆さんも、ぜひお試しを。



それぞれの星座領域に散って、設計図を見ながら校庭に星をならべる子どもたち。



完成した星図、カラーでお見せしたい!